

水稻早生系統「ちくし46号」の育成

農産研究所

1 背景、目的

品質の良い米を安定的に生産するためには、熟期を考慮したバランスの良い品種構成とすることが重要です。これまで普及、奨励されてきた水稻早生品種「日本晴」は、食味評価が低いことから、平成10年3月に奨励品種から除外されました。

このため、これにかわるおいしい早生品種の育成が強く要望されていました。

そこで、成熟期が「日本晴」と同じで、栽培しやすく、おいしい水稻早生系統を育成しました。

2 成果の内容、特徴

「ちくし46号」は、平成4年に「夢つくし」を母、「中部88号」を父として交配した組み合わせから誕生しました。特性は以下のとおりです。

- 1) 出穂期、成熟期はともに「日本晴」と同程度で、「ヒノヒカリ」より7日～10日早い。
- 2) 稈長と穂長は「日本晴」よりやや短く、穂数は同程度。
- 3) 倒伏には「日本晴」よりやや強い。
- 4) いもち病及び白葉枯病圃場抵抗性は「日本晴」よりやや弱く、「ヒノヒカリ」と同程度。
- 5) 収量性、玄米品質はともに「日本晴」と同程度。
- 6) 炊飯米は光沢と味が良く、粘りが強く、年間を通して安定しておいしい。

3 主要なデータなど

表1 「ちくし46号」の栽培特性

系統名	成 熟 期	稈 長	穂 数	倒 伏	収 量	同左 標準 比率	千 粒 重	検査 等級
品種名	月・日	cm	本/m ²		kg/a	%	g	
ちくし46号	9.24	80	341	1.6	53.5	104	22.3	3.3
日本晴	9.24	82	336	2.4	51.5	100	23.4	3.3
ヒノヒカリ	10.4	86	358	1.4	56.6	110	23.0	3.3

注) 平成9～12年農産研究所の平均値。移植期：6月8～11日。
倒伏：0(無)～5(甚)。検査等級：1(1等の上)～6(2等の下)。

表2 「ちくし46号」の食味

系統名	食味評価			
	総合	外観	味	粘り
ちくし46号	+1.55	+0.92	+0.96	+1.50
日本晴	0.00	0.00	0.00	0.00
ヒノヒカリ	+0.82	+0.69	+0.65	+0.71

注) 平成9～12年農産研究所の平均値。
値が大きいほど優れる。



写真1 「ちくし46号」の株標本